

言葉の壁をこえる、 みんなで。



μ NPO法人メタノイア

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

目 次

本事業の趣旨	1
1. あだちプレスクール	2
2. 蒲田母語・日本語教室	6
3. オンライン日本語クラス	8
4. 外国ルーツの住民支援団体ネットワーク	9
5. 外国にルーツをもつ幼児・小学生支援者のスキルアップ研修	10
まとめ	12

外国ルーツ住民のハイブリッド支援プラットフォーム構築事業 趣旨

前年度の取り組み

文科省によれば、「日本語指導が必要な児童生徒」（日本語での日常会話が十分にできない子どもや学習に支障が生じている子ども）は全国に 58,000 人以上 (*1) いるとされています。こうした子どもたちにも学びの機会を保障するため、私たち NPO 法人メタノイアは、2022 年度よりプレスクールやオンラインクラスの開講、支援者ネットワークの拡充など、民間ならではの先駆的な実践を積み重ねてきました。詳しくは、前年度(2022 年度)報告書を右記 URL また QR コードよりご参照ください。



前年度報告書

<https://metanoia.or.jp/3195/>



オンライン / 対面 ハイブリッド型支援

新型コロナウイルス感染者の急増により、その対応策として広がった「オンラインで学習する」という試み。外国にルーツをもつ子どもを支援する私たちの間でも、様々な試行錯誤が繰り返されました。そして、外出が制限されなくなった今も、「日本語教室に通う足がない」という課題や、「学びたい子どもと教えらる先生がいても、一緒に学習できる場所の確保が難しい」という課題を乗り越えていくためのツールとして活用されています。本事業のオンラインクラスは、そういった課題をもつ子どもと、全国に広がる「子どもに日本語を教える」ための専門性と熱意を兼ね備えた日本語教師をマッチングするプラットフォームとして、少しずつその受け皿を広げてきました。

一方、「オンラインも良いけど、やっぱり対面で会うのっていいよね」と多くの人が語るように、子どもたちもやはりそう感じているようです。実際に「みんな」と会って空間を共にする楽しさが学ぶ意欲につながること、孤独を遠ざけてくれること。それら対面教室の特長を大切にしつつ、オンラインがもつ力も活かした「ハイブリッド型支援」を、本事業の取り組みを通して追究しています。

子どもたちを「みんな」で支えるプラットフォーム

各地で支援活動に励む団体同士を有機的につなぎ、みんなで地域の子どもたちに平等な教育を届けていこうとする取り組みも前年度から継続しています。加えて、日本語教師やコーディネーターとして活躍する支援者を対象とした専門性を高める研修を企画したところ、500 名以上の参加申込みを得ることができました。支援者同士がつながり、学び、支え合うプラットフォームとしての役割を当法人が担うことで、子どもたちと私たち、みんなで力を合わせて壁を乗り越えていけたらと願います。

*1) 「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（令和 3 年度）」（2022 年 10 月 18 日、文部科学省）
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/09/1421569_00004.htm

1. あだちプレスクール

目的	言葉の壁で幼稚園・保育園に通いづらい外国にルーツをもつ幼児に対して日本語習得や集団生活の機会を提供することで、幼保園及び小学校へのスムーズな統合を後押しする。また、この実践をモデルケースとして進め、得た知見を国や自治体等の行政や他のNPO等と共有することでプレスクールの普及を促進し、多様な背景の子どもを包摂する地域社会づくりに寄与する。
内容	日本語教師による言語習得支援、保育士による育ちの支援等を通じて、外国ルーツの幼児が無理なく通園や小学校入学のレディネスを養える環境を整備する。また、就学後にも引き続き支援を必要とする子どもの受け入れも行う。
対象	主として外国にルーツをもつ4歳～7歳 *幼稚園・保育園に通わない不就園児（＝無園児）や、小学1年生を含む。
担当	日本語教師・コーディネーター：日本語教師有資格者 スーパーバイザー：保育士・日本語教師有資格者
場所	認定NPO法人キッズドア 国際交流センター内（東京都足立区）
時期	通年 毎週月・水・金曜日 16:00-18:00 〈全104回〉
人数	全登録者16人 / 1回あたり平均参加者 約4.5人

幼稚園・保育園に通えない子どもたち（不就園児／無園児）



外国にルーツをもつ幼児の中には、望んでも幼稚園や保育園に通うことができない子どもたちがいます。

本事業「あだちプレスクール」に通室するある幼児は、幼稚園年長にあたる5歳の時に来日。しかし当初は「短期滞在」といういわゆる観光ビザを使って入国したため、区役所で住民登録をすることが制度上かなわず、結果的に幼稚園や保育園の入園資格を満たせませんでした。短期のビザで一旦入国をしてから、後で長期定住が可能なビザに切り替えることは一般的なプロセスなのですが、その手続期間中は数か月にわたり不就園（無園児）状態になってしまうという不利益を被ることがあります。

就学直前の大事な時期に、日本語に慣れることもなく、ただ家で毎日を過ごしてはもったいない。そう考えた保護者が私たちのプレスクールに相談にやってきて、通室を始めることになりました。

日本における在留外国人数は約 322 万人で、前年同時期と比べ 4.8% 増加し、過去最高を更新しました（出入国在留管理庁, 2023）。在留外国人の人口増加に伴い、日本で暮らす外国にルーツを持つ未就学児も増えています。

日本で暮らす外国ルーツの親子が増加する一方で、外国ルーツの子どもたちが、日本の教育制度の中に十分に包摂されていない現状があります。可知らの研究 (2020) では、親が日本国籍の子どもと比べて、両親どちらかが外国籍の場合、保育園や幼稚園に入園していない「無園児」になる確率が 1.5 倍高いことが報告されています。また、東京都港区の調査 (2023) では、両親が外国籍の 3 歳以上の子どもの 9.8% が就園せず家庭で過ごしている（両親ともに日本国籍の家庭は 2%）こと、神奈川県綾瀬市の調査 (2023) では、自治体内の外国籍の子どもの 41% が未就園という結果が報告されています。現在、3 歳以上については幼保無償化の対象となっていることもあり、日本国内の子ども全体では、3 歳は 91%、4 歳は約 97%、5 歳は約 98% の子どもたちが保育園もしくは幼稚園に就園しており（厚生労働省, 2021）、ほとんどの子どもが幼児教育を受けた後に小学校に入学する状況があります。したがって、無園児状態となっている外国ルーツの子ども日本語学習や集団生活の機会をどのように保障していくのかが課題となっています。

しかし、現在のところ、日本では学齢期以降の外国ルーツの子ども学校への適応と日本語のサポートが国の政策の中心となっており、就学前については、国や自治体による具体的な支援制度・施策が乏しい状況です。筆者の調査では、子どもの来日の時期や在留資格の不安定さ、親子の日本語習得の状況など様々な要因により、就園できていない外国ルーツの子どもの実態が明らかになってきました。NPO 法人メタノイアが運営する外国ルーツの子どもを対象としたプレスクール事業は、保育園や幼稚園に就園することが難しい外国ルーツの子どもを「だれひとり取り残さない」ためにも非常に重要な取り組みです。海外の先行研究では、質の高い就学前教育とケアは、外国ルーツの子ども就学前の準備と就学後の学業達成度を向上させ、他の子どもたちとの格差を縮める可能性があることがわかってきています。日本でも、あだちプレスクールをはじめとする外国ルーツの未就学児の支援が今後拡充していくことが期待されます。



逢坂 由貴 さん

九州大学大学院 地球社会統合科学府 博士後期課程
社会福祉士 / 保育士
NPO 法人メタノイア アドバイザー

小学校入学後の継続的な支援の必要性

小学校入学を果たした後も、壁は立ちはだかります。本事業に参加する子どもにヒアリング形式のアンケートをとったところ、「先生の話す日本語は数%しかわからない」、「日本語がわからないせいでゲームのルールが理解できず、クラスメートが遊びに誘ってくれない。すごく辛かった」、「担任の先生が忙しそうで相談できなかった」、といった声が聞かれました。プレスクールで日本語を学んだから大丈夫、というわけではなく、入学後も日本語の学習を息長く継続する必要性がうかがえます。そこで、今年度の本事業では昨年度の修了生にあたる現小学1年生の受け入れも行い、言葉の育ちのサポートを続けました。



寄稿 担当日本語教師の声

さよならの挨拶をして、保護者が迎えに来ているのに、なかなか帰ろうとせずに遊びやおしゃべりを始める子ども達。

プレスクールは、日本語の習得や集団活動に慣れるだけの場所ではない。自分らしくいられる居場所であり、母語で話せる(同じような境遇の)友達がいて、未熟な日本語でも話を聞いてくれる大人がいる場所でもある。

初めての卒業生であり、新生活に慣れるまでと引き続き受け入れていた、ピカピカの1年生ふたり。プレスクールに半年通い、講師達とは日本語で意思疎通できるようになっていたAさんは、「学校の先生が言っていることがわからない！みんなを見てまねしてる。」と言っていた。

不就園だったBさんは、プレスクールには3ヶ月間通ったが、自分から日本語で話すことはほとんどなく、学校の授業を思い出すのか、活動中にふと涙を浮かべることがあった。

彼らを見てわかったのは、小学生になったら卒業ではなく、入学後も伴走していかなければならないということ。

子ども達が安心して学校生活を過ごせるよう、子どもの個性を理解している私たちが、幼児期から小学生まで継続して支援していくことが必要だ。



大津 真理子 さん

NPO 法人メタノイア あだちプレスクール 日本語教師

寄稿 連携団体の声

本事業「あだちプレスクール」は、多くの地域の方の力を借りながら運営しています。そのひとつ、会場を提供してくださっている認定NPO法人キッズドアさんよりメッセージを寄稿いただきました。

キッズドアでは、外国にルーツをもつ小学生から高校生までの子どもたちを対象に学習・居場所支援を行っています。メタノイアさんには、キッズドア国際交流センター内（右写真）にてプレスクールを運営していただくことで、就学前から就学後まで学びを止めない支援を共に目指すことができます。プレスクールでは、遊びやゲーム、歌などを通して、子どもたちが楽しく日本語を学習していることがわかります。それだけでなく、子どもたちの背景にも目を向け、母語や継承語にも配慮し、一人一人が大切にされていることを感じます。



また、メタノイアさんとは、東京都足立区における地域支援者ネットワーク「まるかるネット」（編集者注：p.9 参照）でも活動を共にしています。まるかるネットは、行政やNPO、民間団体が垣根を越えてつながり、東京都の中でも珍しい地域ネットワーク組織です。それぞれの立場から、子どもを取り巻く課題を共有し、その解決策を模索しています。今後も互いに連携を取りながら、子どもたちに明るい未来を描いてもらえるような社会づくりの一助になっていくことを共に目指していきたいと願っています。



加藤 みゆき さん

認定NPO法人キッズドア
Kidsリビングglobal事業責任者

地域展開と新たな連携

足立区での本取り組みを通じて、外国にルーツをもつ幼児に対する支援の必要性を改めて確認することができました。次年度以降、近隣の市区でも同様の取組みを展開できるよう、新規連携先の開拓を進めています。これまで支援リソースが集中してきた小・中学生年代とともに、今後は幼児への支援も、プレスクールの実施などを通じて社会全体で取り組むことができたらと願います。



2. 蒲田 母語教室 / 日本語教室

- 目的** 英語を母語／学習言語とする小・中学生を対象に、英語のブラッシュアップ、補習的な学力向上等の機会を提供することで、高校以降の進学意欲を育み、自己実現を後押しする。さらに言葉の壁による孤独・孤立を予防しつつ自尊心・アイデンティティを涵養するコミュニティの役割も果たす。
- 内容** 毎回、前半は英会話、後半は英語を用いた宿題サポートや教科学習支援を行う。英語教授を専門とする講師だけでなく、外国にルーツをもつ若者や帰国子女の大学生等も講師の役を担い、似た立場で様々な壁を乗り越えてきた先輩として次世代の子どもの教育に貢献する機会を提供する。
- 場所** mics おおた（東京都大田区蒲田）
- 時期** 通年 毎週土曜日 17:30-19:30 〈全 45 回〉
- 人数** 全登録者 25 人 / 1 回あたり平均参加者 約 5.9 人

インタビュー 担当コーディネーターの声

—— 教室に来ている子どもたちの背景は？

ネパール、またはフィリピン生まれで、ある程度の年齢になってから中途来日した小・中学生が中心です。保護者は先に仕事で来日し、子どもたちを呼び寄せたものの、子どもの教育について悩んでいます。日本の公立学校では英語教育が物足りないこと。それなりに生活が安定している人もいますが、子どもの英語力がもっと伸びたらと願っていているようです。

—— なぜ英語学習に関心が高いのでしょうか？

将来のことを考えて、選択肢が増えるからだと思います。日本で暮らしているネパールの子どもの保護者の中には、英語圏（欧米）の大学を目指している人も少なくありません。一般的に、日本語教室で教えている私たち支援者は子どもたちがずっと日本で生きていくというイメージで支援しがちかと思いますが、学習者やその家族はもっとグローバルに考えていて、チャンスがあれば他の国に行っても良いと思っているようです。一方、フィリピン系の方々は、どちらかという日本への定住をイメージしていることが多いようです。



—— **日本語学習のニーズもあるということですね。**

はい、ニーズは多くありますし、まったく満たされていないと思います。地域に子ども対象の日本語教室は私たちの他にもいくつかあるのですが、必ずしも受け入れキャパシティが大きいわけではなく、教室数がそれなりにあったとしても受け皿としては十分でないと思われる。また、勉強が苦手な子で、保護者も教育熱心ではないといった、本当につながってほしい家庭の子どもには、私たちも含めてなかなかつながれていない現状もあります。

—— **その中であえて英語を軸にした教室を開いている意図は？**

子どもたちの背景が多様なので、単なる日本語教室だけでなく、特徴がある教室もあったほうがいいのではないかと考えているからです。例えば、区内にある外国人特別枠をもつ（英語で受検できる）都立高校の生徒にもつながれたらと思っています。放課後に日本語補習授業があるようですが、日本語で日本語や教科を教える方法なので、英語で日本語や教科の学習ができる場も地域にあっていいのではないかと思います。

また、日本の中でもいずれ、製造業や農林水産業などでも社内公用語が英語、というところも出てくるのではないかと考えています。例えば、サウジアラビアはアラビア語ができなくても働けます。ローカル言語ができなくても働ける環境が移民受け入れ国家では今の世界では当たり前です。だから日本でも、日本語ができないと就職できない、というわけではない未来があるかもしれない。むしろ英語をもっと学んだほうが良いかもしれない。メルカリや楽天など、日本の企業もそう言っているのですから。

—— **生徒たちはどう感じているのでしょうか？**

例えば、過去に私たちの教室で学んでいて今は都立国際高校（英語に力を入れており、英語話者が多く通う公立校）に通っている生徒は、「今の高校では素の自分を出せるからいい。中学の時はまったく出せていなかったから」と話していました。たしかに、都立国際高校を覗くと外国にルーツをもつ生徒もそうでない生徒も、いきいきしている人が多い印象です。偏差値と倍率が高すぎて入りにくいというハードルはありますが。でもその人気の理由は、いい大学に行けるから、というだけでなく、自分のままで生きていけるから、ということもあるかもしれませんね。そういう多様な進学先の選択肢がもっと増えていけばと願います。



豊田 合志 さん

NPO 法人メタノイア 蒲田教室 コーディネーター

3. オンライン日本語クラス

目的	オンラインツールを活用して外国ルーツの子どもの日本語教育を個別最適化する。日本語教室が自宅から遠すぎて通えない学習希望者や、週1回程度の対面の日本語教室では十分ではなく集中レッスンが必要な日本語初学者など、多様な学びのニーズに応じて柔軟にレッスンを行うことで支援機会の拡充を図り、言葉の壁をこえて誰も取り残さない社会の実現に寄与する。		
内容	日本語学習を必要とする学習者と日本語教師をコーディネーターがマッチングし、1クラス6人までの少人数で、オンライン日本語レッスンを行う。なお、授業料を徴収するが、生活困窮世帯の子どもにはスカラシップとして授業料の減免を行う。		
対象	外国にルーツをもつ幼稚園年中児～中学生、および保護者等の成人		
担当	日本語教師・コーディネーター：日本語教師有資格者		
時期	通年 毎週月～金曜日	18:00-19:45	*左記を中心に柔軟に調整 〈全224日〉
人数	全登録者39人 / 1日あたり平均参加者 約4.9人		

参加者募集！ (*参加料金に変更になる場合があります。Web ページをご確認ください)



2023年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

にほんごきょうしつ

日本語線上课堂 / オンライン日本語教室

大家好！现在，我们提供线上课堂。
欢迎大家参加我们的线上日语课堂！

わたしたちメタノイアでは、オンライン日本語教室を開講しています。ぜひ、ご参加ください。

<p>■時間</p> <p>周一到周五 17:00- / 18:00- / 19:00-</p> <p>周六和周日 9:00-10:00-11:00-12:00-/ 13:00-14:00-15:00-16:00-/ 17:00-18:00-19:00- / 20:00-</p>	<p>■日時</p> <p>月-金 17:00- / 18:00- / 19:00-</p> <p>土・日 9:00-10:00-11:00-12:00-/ 13:00-14:00-15:00-16:00-/ 17:00-18:00-19:00- / 20:00-</p>		
<p>■教学方式</p> <p>线上课堂 (zoom)</p>	<p>■课时</p> <p>一节课有45分钟</p>	<p>■場所</p> <p>オンライン (zoom)</p>	<p>■時間</p> <p>1回あたり45分</p>
<p>■学费</p> <p>毎月三千日元 (一周上一次課) 毎月六千日元 (一周上两次課) 毎月九千日元 (一周上三次課) ※学费支付方式: 用信用卡或者银行自动转账 ※入学金: 免费</p>	<p>■料金</p> <p>毎月3,000円 (週1回受講) 毎月6,000円 (週2回受講) 毎月9,000円 (週3回受講) ※クレジットカード または 口座引き落とし ※入会金は無料です。</p>		
<p>■课堂概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○老师: 原则上由具备日语教师资格的老师负责授课 ○每一班学生人数: 最少一名, 最多六名 ○教材: 老师跟学生和家长一起商量后决定。请在第一次上课之前准备一下确定的教材。 	<p>■授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどのクラスで「日本語教師の資格」を持っている先生が教えます。 ○グループレッスンです。先生1人に対して生徒は1~6人です。 ○教材は、先生と生徒・保護者様で話し合っ決めて。決まったテキストを初回の授業までに購入していただきます。 		

支援者の方からの紹介で、日本語の学習機会が得られない子どもたちにつながる事ができたケースは多数あります。身近に対象となりそうな学習希望者がいらした場合は、ぜひ下記のQRコード / URL から本プログラムの詳細をご確認のうえ、ご本人と保護者にご紹介ください。

時間帯やレベル、使用する教材などは全て子どもの日本語教育に詳しいコーディネーターおよび講師と相談して個別に決定していきます。まずはお気軽にご相談ください。

詳細は下記 Web ページから ▼

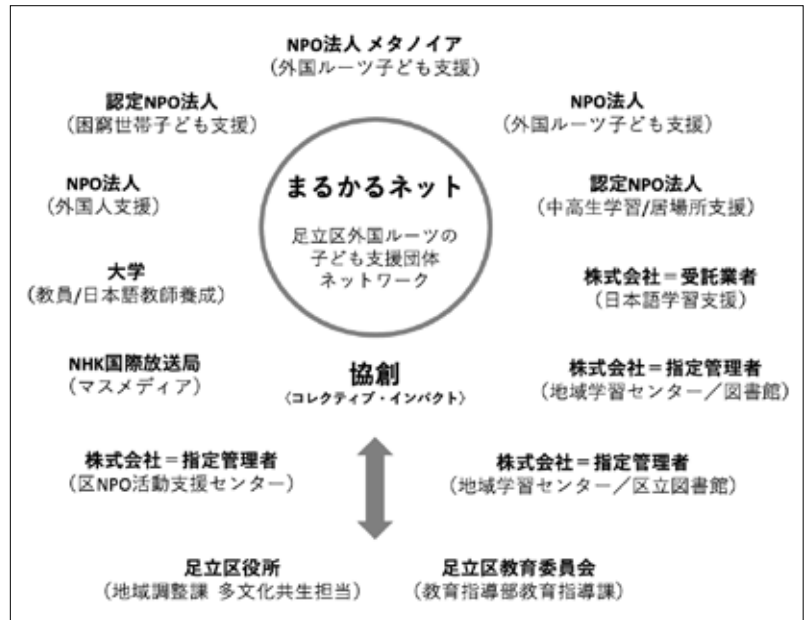


<https://metanoia.or.jp/3782/>

4. 外国ルーツの住民支援団体ネットワーク

まるかるネット（東京都足立区 地域支援者ネットワーク）

本事業で実施した「あだちプレススクール」が行われている東京都足立区では、外国ルーツの子ども支援に関係する官民入り混じった多様なセクターによる「まるかるネット」（右図）を構築しています。隔月の定例会で情報や意見の交換をするほか、ワーキンググループを構成して区への政策提言活動も行っています。民間支援団体、行政、企業が一体となり、外国ルーツの子どもが平等に学ぶ地域社会づくりを「協創」するため、手を携えています。



寄稿 行政担当者の声（足立区役所）

足立区では、外国にルーツを持つ子どもの支援を行う団体がネットワークを形成し、隔月で定例会を実施し情報交換を行っております。本ネットワークには、NPO法人や学生団体、民間企業や行政など多様な主体が参加していることに特徴があり、様々な立場からの意見や情報に触れることができます。

足立区が実施している「外国にルーツを持つ子どもの学習支援事業」を拡充した際には、本ネットワークの場でいただいた意見を参考にしており、実際の現場で子どもを支援している方々の生の声を施策に反映することができました。

また、本ネットワークでは、外国にルーツを持つ子どもを取り巻く現状を地域の方々にも知っていただき、支援につなげることを目的とした区民向け講座を開催し、毎年多くの方々にご参加いただいております。講座の中で行うワークショップでは、多くの意見や感想を伺うことができ、地域の方々の想いに直接触れられる貴重な機会であると考えております。

引き続き、本ネットワークと活動を共にし、現場に近い行政の立場で外国にルーツを持つ子どもの支援を考え、施策の検討を進めてまいります。



鈴木 健太 さん

足立区 地域のちから推進部 地域調整課 多文化共生担当係長

5. 外国にルーツをもつ幼児・小学生支援者のスキルアップ研修



**外国にルーツをもつ幼児・小学生支援者の
スキルアップ研修**

<テーマ>

①子どもの日本語教育	2/14 (水)
②プレスクール	2/21 (水)
③マイクロアグレッション	2/28 (水)
④母語・継承語教育	3/6 (水)

各回 午前11:00 - 12:00
オンライン/録画視聴
<無料>



目的	本事業に携わる支援者のほか、外部からも広く参加者を募り、外国ルーツの子ども支援に関心を持つ支援者のネットワークを広げる。孤立しがちと言われるオンライン日本語教師や地方の地域日本語教室等の教師がつながり合うことで、スキルとモチベーションの向上を図り、「みんなで」広く課題解決を目指す協力の輪を築くことを目的とする。
内容	右記の4名の専門家による講演を聴き、質疑応答や対話を行うオンライン研修会。リアルタイムで参加する方法のほか、事後配信される録画映像の視聴も可。
対象	外国にルーツをもつ子どもの支援に関心がある方を中心に広く一般
ツール	Zoom ミーティングルーム (事後配信: YouTube)
時期	2024年2月～3月 (リアルタイム配信) *事後配信は視聴申込み期限なし
人数	576名 (2024年3月23日時点までの申込人数)

右記の専門家による講演の録画映像は、お申込みいただければいつでもご視聴いただくことができます。期限はありません。

右のQRコードまたは下記のURLから、リンク先のページ (Peatix) を開き、「チケットを申し込む」ボタンを押してお申込みください (無料)。

申込み ▶ <https://metanoia2023seminar.peatix.com/>



第1回 子どもの日本語教育の基礎

〈講演〉中川祐治さん 大正大学 文学部 日本文学科 教授

大学教員として、支援者として、NPO 理事として、そして学会や国の省庁の委員等として、多様な立場から中川さんが俯瞰されている「子どもの日本語教育」について、概説していただきました。子どもの日本語教育は「エンパワーメント」とも言えますが、それは弱いものに外から力をつけてあげるという意味ではなく、子どもたちがもともと持っている力を引き出す作業である、そのキーワードは「セルフエスティーム」（自信）と「リスペクト」（尊重）である、とお話していただきました。

第2回 就学前日本語クラス〈プレスクール〉ってなんだろう？

〈講演〉川上貴美恵さん 社会福祉法人せんねん村 多文化ルーム KIBOU 責任者

長年、愛知県で外国にルーツをもつ幼児のための「プレスクール」に取り組んでこられた川上さんより、プレスクールを実施する意義とその効果について説明していただきました。ただし、プレスクールだけ、日本語初期指導だけ頑張ればすべてうまくいくということではなく、段階的な息の長いサポートが必要であること、そして日本語に苦手意識を持ちやすい親を巻き込んだ取り組みの価値についてもお話していただきました。

第3回 子どもに対するマイクロアグレッション

〈講演〉下地ローレンス吉孝さん カリフォルニア大学 バークレー校 客員研究員

「ハーフ」の研究等で著名な社会学者の下地さんが、マイクロアグレッションの定義や問題点について解説していただきました。差別は誰もがいきなり行い得る身近なものであるという認識をもったうえで、目の前で差別やマイクロアグレッションが起こった時に、バイスタンダー（その場に居合わせた人）として自分たちに何ができるか、参加者の皆さん共に考えを深める時間をもつことができました。

第4回 母語・継承語教育の重要性

〈講演〉奥村安寿子さん 広島大学 准教授

大学の日本語教育学プログラムで教壇に立つ傍ら、バイリンガル・マルチリンガル環境で育つ子どもの言語の発達上・教育上の相談を受ける活動もされている奥村さんより、母語と継承語の定義とそれらがなぜ大切なのかご説明いただきました。そして、支援者と地域ができることとして、母語と継承後はどちらも大切であると伝えること、保護者が子どもと一緒に「ことば」を学ぶ場を作ること、子どもが「ことば」を使いたい場所を作ること、などをご提案いただき、その具体例の一つとしてプレスクールの活動を挙げられました。

まとめ

多様なニーズに応える多様な支援の必要性

外国にルーツをもつ子どもの支援プログラムとして、学齡児（小・中学生）を主な対象とした対面の日本語教室はこれまで全国で数多く実践されてきました。その必要性は言うまでもありませんが、日本で生きている外国にルーツをもつ子どもたちが非常に多様な背景を持っている以上、支援のあり方もまた多様でなければ、一人ひとりの必要に十分応えていくことはできないでしょう。

本事業における「プレスクール」、「母語教室」、「オンラインクラス」は、いずれも一般的な子ども日本語教室とは異なる取り組みですが、そこに集まってくる子どもたちの楽しそうな笑顔、真剣な眼差しを眺めるにつけ、こうした多様な支援施策を更に広げていく必要性を改めて実感します。

教室の多地域展開と支援者をつなぐ取り組み

次年度、まずは「プレスクール」を近隣の地域にも展開することを計画しています。すでに、趣旨を理解し協力を承諾してくれている連携先団体が見つかっており、幼児をもつ保護者から参加希望の申込みも得ていることから、多地域で展開する構想の手応えを感じています。同時に、地域を越えた支援者のネットワークを紡ぎ、活動に必要な知見の共有を図ることで、より広い地域で、より深く子どもたちの学びとつながりが育まれる仕組みづくりを目指したいと考えています。

息の長い伴走を実現するために

本事業では、助成金を受けて教室運営の基盤を整えつつ、参加者からも月謝を受け取ることによって安定して継続できる体制を整えています。しかし、参加者の子どもの中には一定数、生活がままならず困窮する世帯の子どもが含まれています。そのような子どもたちも置き去りにせず包摂するため、月謝の減免（スカラシップ）制度を設けています。

今後もその仕組みを拡充し、息の長い伴走支援を広く届け続けるため、皆様からの継続的なご寄付（マンスリーサポーターによる寄付）を活用させていただければと願っています。ひとり残らず「みんな」で共に高い壁を乗り越えていくために、この歩みに加わっていただけますと幸いです。よろしく願いいたします。

ご寄付のお願い

外国にルーツをもつ子どもたちの
未来を変える大きな力になります。

▶ クレジットカード



〈マンスリーサポーター〉 毎月 1,000 円～ (1 日約 33 円～)

〈今回のみの寄付〉 1 回 3,000 円～

上記いずれも、右の QR コードまたは下記 URL/ 検索ワードから当法人のウェブサイト
にアクセスして、さらに詳しくご確認くださいことができます。

◎ NPO 法人メタノイア 寄付ページ <https://metanoia.or.jp/donation/lp/>

◎ 「メタノイア 寄付」で検索していただいてもアクセスできます。



▶ 郵便振替(現金) / ゆうちょ銀行電信振替

本紙添付の郵便振替「払込取扱票」を使用して、郵便局の ATM にて現金でご寄付いただけます。

また、ゆうちょ銀行の電信振替(口座間送金)もご利用いただけます。

口座記号番号 **00150-6-768645** 口座加入者名 **特定非営利活動法人メタノイア**

*電信振替の場合は、通信文の欄に「寄付」とご記入ください。

*恐れ入りますが、手数料はご負担いただきますようお願いいたします。

▶ 銀行振込

上記 QR コードまたは URL/ 検索ワードから、お申込みを受付けております。





最新情報はこちらから

ニュースレター（メール配信登録）

<https://metanoia.or.jp/newsletter/>



Facebook : [METANOIAorjp](https://www.facebook.com/METANOIAorjp)

X(Twitter) : [@METANOIAorjp](https://twitter.com/METANOIAorjp)



2023 年度「外国ルーツ住民のハイブリッド支援プラットフォーム構築事業」報告書

発行日 2024 年 3 月 31 日

発行者 特定非営利活動法人メタノイア

〒121-0815 東京都足立区島根 2-21-19 リトルハイム 203

TEL 03-6755-8345 Email office@metanoia.or.jp WEB <https://metanoia.or.jp/>